

年 組 名前：

問1

やまなしだいがくがくぶ せいめいかんきょう  
山梨大工学部と生命環境

がくぶ どうそうかい やまなしこうぎょうかい  
学部同窓会「山梨工業会」

やまなししぶ ゆうし  
山梨支部の有志が、

た あ ちあげたクラブ名と、

た あ りゆう  
立ち上げた理由を

こた  
教えてください。

・クラブ名

.....

・理由

.....

.....

.....

.....

# 理科の面白さ知って

## 山梨大同窓会が「クラブ」運営

### 小中学生向けに講習会

子どもの理科離れが指摘される中、山梨大工学部と生命環境学部の同窓会「山梨工業会」の山梨支部の有志が、ものづくりや理科の面白さを知ってもらおうと、「山梨理科クラブ」（土屋治彦会長）を立ち上げ、小中学生向けの講習会を開いている。ものづくり体験を通して仕組みや原理を伝え、子どもの理科への興味を広げることが目指している。

クラブは支部事業の一環として、6月に発足した。土屋会長は背景について「日本の技術を支える人が少なくなっているという危機感がある。子どもたちから、ものづくりの楽しさを知ってもらう必要があると考えた」と話す。クラブは、技術開発や生産技術の経験者や研究者ら14人で構成。小中学生向けの講習会を年に3、4回開く計画で、メンバーがボランティアで運営、指導に当たる。8月に1回目を開催。オリジナルの設計図と材料一式を用意し、作る楽しさを体感してもらおうと、同時に、製作したものが動く原理を解説している。12月17日に開いた第2回講習会では、紙の鍵盤の一部を帯状に鉛筆で塗り、電池やスピーカーとつなげて音を出す電子楽器を製作。参加者は塗りつづけた幅によって音が変わることを体験した。メンバーは電気が流れる仕組みや、物質によって流れやすさが異なることなどを説明した。甲州・東雲小の場千伶さん（6年）は「電気を流して音が出る仕組みが分かって、理科の勉強になった」と感想。妹の愛美さん（3年）は「自分で作って音が出るのが楽しかった」と話した。同日の講習会は定員60人の2倍近い応募があり、クラブは参加できなかった人を対象に、来年3月に同じ内容で開催することを決めた。土屋会長は「子どもたちからものづくりに触れてもらい、日本の技術を支えるベースとなる層を増やしたい」と話している。

〈杉原みずき〉

問2

(2023年12月19日付 山梨日日新聞19面)

だい かいこうしゅうかい なに せいさく なに たいけん  
第2回講習会では、何を製作し、何を体験しましたか。

せいさく  
製作： .....

たいけん  
体験： .....

問3

つちやかいちよう かつどう なに ふ はな  
クラブの土屋会長は、この活動をすることで、何を増やしたいと話していますか。

.....